

コロナ禍でまちづくりは変わる 弱者を支える土地活用とは!?



人口減や「コロナ」による価値観の変化により、空家問題などが加速している。そんななか、ひばりヶ丘駅前の「ERA LIXIL不動産ショップ・三成産業」では、「社会的意義のある形で土地を活用し、土地・物件所有者にも入居者にも喜ばれている。その活動から見えてくるのは、「住まいかげ」できる地域づくりだ。数回にわたってレポートする。

「コロナ禍で地域への見方や関心が変わってきています。テレワークが増える一方、首都圏を去る人も出ており、これからの町は都心に近いという利便性だけではやっていけないのではないでしょうか。」

そう指摘するのは、ひばりヶ丘駅前「ERA LIXIL不動産ショップ」の清水二郎さんだ。

賃貸・売買・管理と多彩に不動産を手がける清水さんは、「不動産からできるまちづくり」を数年前から意識してきている。それが今、このコロナ禍でよりニーズが増した格好となっている。

「改めて同号の内容を振り返ろう。同号で本紙は、同社とNPO法人「友訪」が連携して精進している。それが今、この神障がい者のためのグループホームを運営していることをお伝えした。」



ひばりヶ丘駅前の「ERA LIXIL不動産ショップ」

同社の役割は、管理物件をグループホーム用に提供すること。物件の賃貸契約は不動産会社としては当然の仕事に思えるが、実はこれは勇気のいる決断だといえる。というのも、精神障がい者が入居していると分かるアパート等は、偏見や差別心から、特に隣室を筆頭に入居率が下がる現実があるからだ。前回の記事では伏せたが、実は取材したこのグループホームは、ひばりヶ丘駅から徒歩5分ほどの好立地にある。現状、多くのグループホームは、「立地が悪くて入居者が決まらない」「NPO理

事者などの所有物件」といった状況で運営されている。つまり、精神障がい者の住居提供は、苦肉の策か篤志家によるもの、というケースが大半となっているわけだ。そうしたなかで、好条件の物件が地域密着の不動産会社から提供されるのは珍しい。

「増える障がい者」では、なぜ同社はそうした提供を行っているのか？ その問いを清水さんは「住宅を探している人に住まいをお貸しするのは不動産会社として当然のこと」と自然体で話す。

「地域の中で暮らしている人を選別するのはおかしなこと。彼らの住まいが不足しているのをサポートしているが、それはあくまでも業務の一つ。何も特別視はして

ません」清水さんの真意を知るには、地域の現状を確認する必要がある。全国のデータになるが、内閣府の公表では、国民の7.6%が何らかの障がいを持っている。精神障がい者に限定すると、10年で100万人以上増えており、人口1000人当たり換算では33人。例えばこれを同社のある西東京市に当てはめると、精神障がい者は市内に6931人いることになる。

これに対し、同市内のグループホームの数は29ユニット(約200人分)のみ。全員が同居を望むわけではなく、住居不足は明らかだ。こうした状況の中、清水さんは大家・所有者に訴える。

「物件や土地をさまざまに活用できることを知れば、選択肢は増える。空家などを抱えずにぜひ相談してほしい」

「この記事は「ERA LIXIL不動産ショップ・三成産業」の協賛で掲載しています」
0120・306・997
西東京市ひばりが丘北3-3-14
9:30~18:00 水曜定休

花粉・ウイルス除去に大活躍 大型コインランドリー

「滝山団地そば」所沢街道・ビッグエー奥の2店
いよいよ花粉が飛ばシーズン。少しでも快適に過ごすために、大型コインランドリーの利用が勧めらる。



衣類はもちろん、カーテン、カーペット、ソファやふとんカバー、寝具類などを簡単に丸洗い、乾燥までできる。また、高温乾燥は、殺菌作用が高く、ウイルス除去にも効果的だ。今、地域で「格安料金で利用しやすい」と評判なのは、2店舗がある「スーパージョインランドリー」の「のみや」右表。特に所沢街道沿い・ビッグエ

割安料金の一例	
[中型洗濯乾燥機]	1400円→1300円
[小型洗濯乾燥機]	1100円→900円
[中型乾燥機]	10分100円→11分100円

※その他もあり。詳細は店頭で。

「奥の「南沢店」は日中はスタッフが常駐しており、初めての人も安心だ。両店は車で5分ほどの距離。6時~24時。無休。☎042-461-4411 (簡単な使用説明等も) 東久留米市南沢5の18の50



モニター越しに交流する田無一中の生徒(右、画面内)と、エクラアニマルの豊永代表(左)、本多さん(左から2人目)

エコキャップ運動で連携！ 田無一中とアニメ会社がネット交流

西東京市立田無第一中 Xを設けている。学校の生徒たちがエコキャップ運動に取り組み、エクラアニマルから豊永の運動を続ける市内のアニメーション制作会社「エクラアニマル」とオンラインで交流する機会があった。エコキャップ運動は、ペットボトルのふた(エコキャップ)を収集し、そのリサイクルで発生した利益を発展途上国の子どもたちのワクチン代に充てるというもの。同校では、生徒会の発案でSDGs運動の一環として取り組む。3月12日まで、校内に回収BOX



自分史の書き方⑨ 文章を書く②

前号に続き、どのように文章を書けばよいか考えてみよう。文章は料理に似ている。役割は同じだ。その何れもお伝えしてき、今度もお伝えしてき、今度も、料理を例にしよう。例えばテレビ番組を見ていて、見たことのない食材が出てきたとする。「うわ、何ですか、こら変わらない。」「ええっ！なに？これが、すごい不思議な感じ。口に入れてみてあげよう。」「うわ、おいしいね。歯ごたえも独特です」これで何が伝わったのだろうか。食レポも文章も、求められる役割は同じだ。それは「それを知らない人」にそれが何であるかを伝えること。その対象が、事実、思想、心情などの差異こそあれ、知らない人を知ってもらうという点では、何ら変わりはない。

では、その役割を果たすには何が必要なのか。この短いスペースで全てを説明するのは不可能だが、最も重視すべきことを挙げてみる。私を少し挙げよう。「まだ1ドル360円」先食レポの例のように、曖昧な表現では何も伝わらない。おいしいのなら「おいしいのか、何か甘いのか辛いのか、何か似ているのか。」

「登山中に雨に降られて、体も冷えきってようやく下山したことがあるのですが、着いた山小屋でカップラーメンを食べたんです。お餅を入れてあげられませんでした。」「どちらも具体的に、場面が立ち上がっている。とりわけ、前者では「1ドル360円の時代」や「塩」が、後者では「お餅を入れた」という具体性が際立っている。皆さんもぜひ、「一番おいしかった食べ物」を振り返ってほしい。そのとき脳裏に浮かぶのは、単に「食べ物」ではなく、シーン(場面)となっているはずだ。その一つ一つを丁寧に記述すれば、読者にイメージを共有してもらえ、とにかく具体性を積み重ねること。他者により正確に何かを伝えるには、それが近道だ。(文/本紙代表・谷隆二)

おいしいダイバーシティ
フードダイバーシティ(株) 共同創業者 横山真也
四六判、184ページ、1870円
菅義偉総理に日本の食についてレクチャーした話題のコンサルタントのデビュー作
大前研一さん推薦
これはポスト・コロナ時代の新聞国論である。
取扱書店など詳しくは... ころから株式会社 ☎03-5939-7950

ネコ見つけました
前号で「グレーの雄ネコを捜しています」とご掲載いただきましたが、おかげさまで、2月5日(金)に西東京市向台町で見つかりました。行方不明だった期間、エサを与えてくださった方もいらしたようです。紙面を借りて、お礼申し上げます。(米倉)

次号は3月3日号です
次回発行は3月3日(水)です (タウン通信)

